

# あくせす news

第 274 号  
2025 年 4 月 14 日  
発行者  
呉市医師会病院  
地域医療福祉連携室  
あくせす

やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。  
すっかり暖かくなり、春たけなわを実感する今日この頃です。  
さて、先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただき、ありがとうございます。  
この度、内科の江木 康夫 医師が退職し、新しく古土井 明 医師が着任しましたので  
ご紹介いたします。より一層のご利用・ご紹介のほど、よろしく願いいたします。



乙女椿

## 外来担当医表

2025年4月

	月	火	水	木	金	
1 診 内科	古土井 明 消化器一般	卜部 景子 内分泌 (広大)	大谷 里奈 消化器一般	頼田 尚樹 消化器一般	柘植 雅貴 肝臓 (広大)	<b>■乳腺外来</b> 毎週水曜日午後 第1・第3土曜日午前 春田 るみ 医師  <b>■ストーマ外来</b> 第2・第4金曜日午前 中塚 博文 医師  <b>■排便障害外来</b> 毎週月・水・金 午前 藤森 正彦 医師  ※赤字＝変更箇所
2 診 内科		石橋 直樹 循環器 (広大)	伊藤 徳明 呼吸器 (広大)	山本 祐太郎 内分泌 (広大)	片山 紀彦 消化器一般	
3 診 外科/大腸肛門外科	藤森 正彦	中塚 博文	藤森 正彦	中塚 博文	藤森 正彦	
4 診 外科/大腸肛門外科/内科	先本 秀人	小川 尚之	先本 秀人	小川 尚之	山口 覚博 呼吸器 (広大)	
5 診 内科					前田 潤二 循環器 (広大)	

## 新任医師 紹介

4月1日に呉市医師会病院に赴任致しました  
内科の古土井と申します。  
平成5年に広島大学を卒業し県内や県外の病院  
で研鑽を積ませていただきました。  
消化器内科が専門で特に消化管の内視鏡治療を  
専門にしています。  
医師会病院の理念および大腸肛門病センターとし  
ての役割を理解し、専門性を活かしながら呉市医  
師会病院に貢献できるよう努めてまいります。  
会員の皆様には今後ともご指導・ご鞭撻の程、  
宜しく願いいたします。

診療部長

ふるどい あきら  
古土井 明



診察日は月曜日です。

- 専門分野 消化器内科
- 取得資格 日本消化器内視鏡学会 認定医・指導医  
日本消化器病学会 認定医・指導医  
日本内科学会 総合内科専門医
- 趣味 旅行

★3月1日～3月31日★

※届出日数 (一般病床)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
119.8 人	60.5%	19.7 日	100 人	163 件



呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 **あくせす**

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 先本 室長 中間 MSW 森下 MSW 菅原 MSW 巻幡  
FAX (0823) 32-7507 事務 向井 事務 井上 事務 岩畔 事務 村田

# 『変形性膝関節症に対する関節注射療法』

—ジョイクルの使用小経験—

医療法人社団慈正会 大矢整形外科病院 院長 **金子 真也 先生**



**【緒文】**変形性膝関節症に対しヒアルロン酸にジクロフェナク成分を結合させた新しい関節注射製剤であるジョイクルを使用する経験を得たので報告する。

**【対象】**対象は5人8膝（女性2人男性3人、年齢64～79歳、平均73.8歳）。ジョイクル投与前に使用した関節注射薬剤はアルツ・スベニール8膝・サイビスク1膝・オルガドロン4膝・ケナコルト5膝であった。また、手術既往は2人4膝であった。

**【症例】**症例① 77歳女性、69歳時両膝関節痛出現し両変形性膝関節症と診断。ロコアテープ・右膝ヒアルロン酸注射等で治療。74歳時症状増悪しジョイクル投与開始。両膝に18回の注射を施行。JOA Scoreは右40→45点・左50→55点と軽度軽快、一旦治療中断。

76歳時再度ジョイクル注射を希望、両膝やや変形性関節症変化進行を認めた。両膝ジョイクル注射再開、現在までに8回注射施行。症状軽快しJOA Scoreは右40→60点・左50→75点と大幅に改善している。

**症例②** 73歳男性、65歳時両変形性膝関節症と診断、67歳時から両膝アルツ関節注射を開始。右2回左1回膝半月板切除術等の手術歴がある。68歳時右膝痛・腫脹増悪あり、サイビスク注射も症状改善なし、ケナコルト注射し症状改善、以後アルツ維持注射を継続。70歳時右膝関節痛増悪あり、右膝ジョイクル注射開始。18か月後、JOA Scoreは右50→65点・左60→65点と改善を認めたが、その3か月後急激な右膝関節痛増悪あり、呉共済病院紹介し人工膝関節置換術施行となった。

**症例③** 77歳男性、74歳時右変形性膝関節症と診断。右膝アルツ関節注射・オルガドロン・ケナコルト関節内注射を施行するも症状改善得られず、ジョイクル注射開始となった。注射開始後疼痛・腫脹ともに順調に減少、32か月経過した現在も投与継続中である。JOA Score35→80点と大幅に改善を認めている。

**【結果】**ジョイクル開始時と、投与後（10回～34回、平均20.4回）時点のJOA Scoreの比較では、投与開始前は30点～60点、平均41.9点であったのが、投与後45点～85点、平均63.1点と改善が得られた。図1

同じく関節液穿刺量の比較では、投与開始初日の穿刺量は0～30cc、平均11ccであったが、投与後の穿刺量は4.7ccと減少を示していた。図2  
アナフィラキシー反応・アナフィラキシーショック等は認めなかった。4人6膝にレントゲン上変形性膝関節症の進行を認め、8膝全例で症状改善が得られたが、2膝は最終的に人工膝関節置換術を必要とした。

**【考察】**ジョイクルはヒアルロン酸に結合したジクロフェナクが関節内で加水分解され抗炎症効果を示すことで疼痛・水腫等の関節症状を抑える。ただし発売後2か月で5500人の使用に対し10例のアナフィラキシー反応報告あり、厚労省から安全性速報が出ている。

**【結語】**ジョイクルはJOA Score改善・関節水腫減少等、変形性膝関節症の症状緩和に有用であったが、レントゲン上は変形性膝関節症の進行を認めた。アナフィラキシーに重々注意し投与前に入念に説明・同意を得ること、投与後の観察をしっかりと行うことが重要である。



2025.3.25 呉市医師会関連医師懇談会

2025.3.25 呉市医師会関連医師懇談会